



ESC 情報

春季号



新年度に向けて

今年の4月は切れ良く月曜日から始まりました。

当社も4月1日に入社式を行い、新たに7名の新入社員を迎えることができました。

内訳としては高卒2名、高専卒1名、大卒4名となります。全員男子です。それぞれやる気に満ち満ちてこれからの長い社会人生活のスタートを切りました。温かい目で彼らの今後を見守っていきましょう。

当社においてもベテラン社員が定年を迎える時期となり、殆どの方は嘱託として継続して働いてくれるのは大変ありがたいことであります。しかし、いつまでもベテランに頼る構図では我々の生き

る道が細くなってしまいます。若手、中堅社員はこれまで以上に食欲に技術の習得に励み、「あの先輩以上に」仕事ができる体制をしっかりと築いてくれるよう、発奮を期待します。ベテラン社員や役職者は中堅社員や若手社員の成長を手助けし、教えるところ、自ら学ぶところを適切に指導し、少しでも早く一人前になることができるよう自らの指導力にも磨きをかけるようにしてください。いつの日かベテラン社員は後進に道を譲るときが来ます。その時に安心して勇退できるよう、一人でも多くの社員が多くの技術を習得し、胸を張って先輩を見送ることができるようにしていきましょう。

当社に限らずこの業界においては最新の設備から、はるか昔に納入し、いまだに運用している古い設備まで多種多様な設備、装置が運用されています。中には当社設計によるものではなく、他社様が設計製造し、諸般の理由で撤退後、当社が保守を引き受けているものも多くあります。過去の経緯を知らない人も多くなってきていますが、当社が保守担当となっている装置に関しては、当然ながら万全の態勢を敷いて保守対応をしていかななくてはなりません。延命化の改造や盤の入替等を行う場合には、現行の盤がどのような動作をしているか、しっかり理解した上で設計を行わないと正しい動作が期待できず、お客様や一般需要家の皆様に迷惑をかけるだけでなく、場合によっては人命を伴う事故に発展するかもしれません。

新入社員が入ってきたこの時期に、若手社員や中堅社員、ベテラン社員についても改めてこの事実を考え、今後の仕事に取り組んでもらえれば幸いです。そして、新入社員にも正しい手順やその手順が生まれた背景もしっかり教え、今後の会社を担う人材としてまっすぐに成長するよう教育をしていきましょう。若手社員らにとって、この教えるという行為は自分の業務の復習にもなります。

そして、一人一人の努力の積み重ねが今後の会社の発展に繋がります。

この4月からの一年が、皆さんにとって実りの多い一年になることを祈念し新年度の挨拶といたします。

無事故無災害で、お客様に喜ばれる仕事を、自信をもって取り組んでいきましょう。



代表取締役 向井 潔

新年度のご挨拶

今年も雪が消えて新年度、街では新入学の子供達の通学が目立つ季節になりました。本州では桜が咲く良い季節を迎えます。

弊社でも7名の新入社員を迎え新年度の実感をしています。

創業以来48回目を迎えます。数年前から定年退職を迎えておる方には、囑託としてなるべく経験を活かし新入社員の教育と管理などをお願いしています。

まだ若い会社と思っている内に年輪を重ね明後年で50年、半世紀の節目を迎えます。思い返すと昭和46年右も左も分からずに創業しましたが以前の職場の先輩の導きによりなんとか起動しました。

しかし、そのすぐ後にオイルショックと言って仕事に必要な電線をはじめトイレットペーパーまで資材が入手できなくなり、物価も急騰、インフレで零細企業は大変困難な事態に遭遇しました。この経済変動は創業間もない私にとって経営とはとても苦しいもので「大変な努力を必要とするものだ」ということを身に染みて教えられました。

この苦労と厳しさはその後の経営に油断しないよう身を正す事が重要であることを植え付けられたと思っています。その後社員も増え、社員教育も関係する多くの先輩企業に指導していただいてなんとか今日を迎えることが出来ました。

最近、長沼町で白鳥などの渡り鳥を頻繁に見ます。いずれも群れを成して飛んで行きます。先日は雁の群れが数百を超し多分千羽ほどは居たと思われる大群を見ました。この大群はどれがリーダーとして統率しているか不思議です。移動をする季節、時刻、そして方角を磁石も無しに夜も集団で鳴きながら渡っていきます。この集団行動を見ていると私たちの企業運営の参考になりそうな部分も有るかも知れないと考えさせられました。社会に必要とされる大切な信用有る会社になるべく皆で日々努力を重ねて行きましょう。



取締役相談役 向井 隆



編集後記

皆様ご存知のことと思いますが、5月1日より元号が「令和（れいわ）」となります。

アクセント等は自由にしてもらっても良いと聞きますが、どこにアクセントを置くか、最初のうちは戸惑いがあるかと思います。数年後には、皆が同じようなアクセントになりそれが一般的な呼び方になるのかなと思います。

私も「昭和」に生まれ、「平成」を経験し、「令和」で3つ目の元号となります。

どのような元号であれ、皆が幸せだなと感じることの出来る年であって欲しいと願います。

最近見たドラマで「幸せは、幸せな時には分からない」といった台詞があったと思います。生きてると、良いこともあれば悪いこともある、全ては反対のことが起こった時に幸せだったのか否かを振り返ることが出来るのかなと思います。

さて、今年も当社には、7名が新卒入社をされました。今回のE S C情報に自己紹介文が載っております。皆様ご一読いただけたかと思います。

これから社会人となり、自分で稼ぎ生活をしていくことが始まります。最初は戸惑いしかありません。戸惑いを克服できるのは「四十にして惑わず」でしょうか。それまでは、自己研鑽を積み色々な経験をしていきましょう。

その積み重ねにより、いずれ幸せであったと振り返ることが出来ると思います。

新元号を迎える年、皆様頑張って行きましょう。

総務課 山崎 利幸



ESC 情報NO. 149 春季号



発行所 北海道電気技術サービス株式会社

〒069-0832

北海道江別市西野幌 120-8

TEL(011)384-8888 FAX(011)384-8889

<http://www.hesc.co.jp/e-mail:hesc@hesc.co.jp>

発行者 向井 隆

編集者 総務課